

# 第23回（仙台第4回）海洋教育フォーラム 私たちの海～海の資源と海岸のまちづくり～

開催日時：平成28年11月12日(土) 13:00～17:00

開催場所：東北工業大学八木山キャンパス937教室

共催：日本船舶海洋工学会海洋教育推進委員会・東北工業大学

後援：宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、(公)日本技術士会東北本部、

教育新聞社、河北新報社、建設新聞社、TBC 東北放送

日本の将来を左右するであろう海洋の活用のため、多くなる可能性を持つ海への関心を持ってもらいたい、知識を深めてもらいたいと思い、数年前から全国で海洋教育フォーラムを開催しています。

ここ仙台では「私たちの海」をテーマに第4回目のフォーラムとなります。東日本大震災の経験を踏まえて海辺の町で考えること、また、海の資源利用の可能性にスポットを当てました。

是非、教員や学生・生徒を含む多くの市民の皆様にご来場いただき、私たちの海への知識をさらに確かなものとしていただきたいと思います。

## プログラム※

※日本船舶海洋工学会と土木学会のCPDプログラムです

13:00～13:15 開会の辞

小林正典 海洋教育推進委員会委員長

### 第1部 海岸のまちづくりで大事なこと

13:15～14:15 減災を基調とした「千年希望の丘」

井口経明 前岩沼市長

津波の破壊力に対し岩沼市では減災を考えた「千年希望の丘」のプロジェクトを推進中ですので、その考え方や推進の方法、進捗状況などを伺います。

14:15～14:45 多賀城高校の防災・減災教育

宮城県多賀城高等学校教員・生徒

多賀城高校ではH28年度に全国2例目の「災害科学科」を開設しました。そこで防災・減災教育のこれまでの取り組みとこれからを伺います。

<休憩 10分>

### 第2部 いま海の資源は

14:55～15:55 福島沖の浮体式洋上風力発電の現況

今北明彦 三井造船(株)船舶・艦艇事業本部

海からのエネルギーとして期待値の高いのは風力発電です。水深の深い我が国の海に適した浮体式が、今、福島沖にて試行されているので、その現況を伺います。

15:55～16:55 海の食料生産

北澤大輔 東京大学生産技術研究所准教授

海の食料はこれまで採取が中心でしたが、転じて、生産するという積極策の可能性を伺います。

16:55～17:00 閉会の辞

新井信一 フォーラム実行委員会委員長

―― 司会

高橋敏彦 東北工業大学教授 ―――

参加費：無料

参加申し込み [締切 11月10日(木)、先着200名]

・Webで：[https://www.jasnaoe.or.jp/jsn-event/20161112\\_mecc\\_sendai/](https://www.jasnaoe.or.jp/jsn-event/20161112_mecc_sendai/)

・E-mailで：[s.arai@tohtech.ac.jp](mailto:s.arai@tohtech.ac.jp)

・Faxで：022-305-3501 (学科事務室)

「第23回海洋教育フォーラム参加申し込み」、「氏名」、

「職業」、「連絡先」を記入して送信してください。

注) 定員を超えた場合にのみ、申し込み時にその旨をお知らせします。

会場住所：仙台市太白区八木山香澄町 35-1 (駐車可)

アクセス情報：[www.tohtech.ac.jp/access/index.html](http://www.tohtech.ac.jp/access/index.html)

問い合わせ先：

東北工業大学工学部都市マネジメント学科

防災共同研究室 Phone 022-305-3512

学科事務室 Phone 022-305-3500

E-mail [s.arai@tohtech.ac.jp](mailto:s.arai@tohtech.ac.jp)